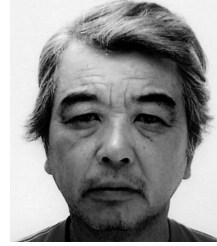




五百蔵 宏明 (39) 兵庫県 自営業
「“ありがとう”と言ってもらえた事を忘れる事はありません。」
東日本大震災での現地の状況は報道で耳にしたものとは違いました。温かい食事を楽しみにしていた人達の顔と「ありがとう」と言ってもらえた事を忘れる事はありません。NPO SSERの災害支援スタッフとして現場に行く事が出来たのは良い経験でした。



佐藤 薫 (61) 大分県 自営業・農業
「あの時あれでよかったのか、もっとももっと何か出来たんじゃあないか。」
夢の中でありますように、と神様に何度も何度も頼んだ。ただこれは事実だった。今この文章を書きながら、又あの時の涙が流れ出す。思い出したく無い事の一つだが忘れる事は出来ない。あの時あれでよかったのか、もっとももっと何か出来たんじゃあないか、少しそう思っています。

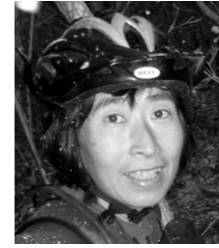


若林 葉子 (40) 東京都 雑誌編集者
「今でもあるごとにお会いした方々のことを思い出します。」
ボランティアという意識はなく、無理せず(いえ少しだけ無理をして)、自分のできることをできる範囲でさせてください。そんなスタンスでお手伝いさせていただきました。あの時、石巻や女川でお会いした人たちはどうされているだろうか、今でもことあるごとに、お会いした方々のことを思い出します。



高橋 貢 (36) 神奈川県 会社員
「活動中、最大の余震に襲われたときは死を覚悟しました。」
いまでも石巻、女川の皆様のことを考えない日はありません。毎日地震発生時刻には腕時計のアラームを鳴らし、支援活動でお会いした皆様の事を考えています。印象的だったのは、悲惨な光景と意外にも明るい(振る舞いだけだろうか)石巻、女川の皆様。暖かい食事がこれほどまでにありがた

く感謝されるとは。活動中、最大の余震に襲われたときは死を覚悟しました。高いところへ向けて連なる自動車のテールランプの列がなすあの形を今でも頭の中に描くことができます。たくさんのボランティアが集合し、効果的な活動を繰り広げる反面、その中にも様々な問題が発生していました。ボランティアの在り方については近年議論になる事が多いが、そこで語られる問題の多くが石巻においても発生していました。多くを失いながらも生き延びた友人が(仙台、宮古にいます。切なくてどうだった?と聞くことさえもできません。ここまで述べたことを感想とよべるでしょうか?これらの事を忘れられる日が来て欲しい、でも忘れたくない、そんな出来事でした。こんなことしか言えません。ごめんなさい。



関 麻実子 (47) 山梨県
「なぜか覚えているのは笑顔ばかり。」
湯気の立つ炊飯ジャーを見て「最初からあったかいご飯だよー!!」と目を輝かせた子供。メニューがカレーと聞いて思わず歓声を上げた若い先生。風呂敷包みを担いで瓦礫の道を延々と歩きながら、「健康になりますよ」と笑った年配のご婦人。なぜか覚えているのは笑顔ばかり。あつという間の10日間でした。



川合 歩 (47) 大阪 会社役員
「今後の災害対策にフィードバックしたい。」
短い期間でしたが、石巻・女川・南相馬地域での活動に参加させて頂きました。未曾有の事態をリアルタイムに体験し、被災者の皆さんと(ほんの一部ではありますが)共感させて頂いたことに感謝しています。阪神大震災に続いての今回の体験はその違いに気づくことも多く、今後の災害対策にフィードバックしたいと思います。

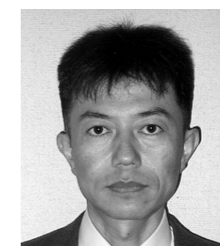


菅原 照仁 (39) 東京都 会社役員
「前を向いて立ち上がる強さを感じました。」
SSERの災害支援活動では、関東からの不足品の搬送でお手伝いさせていただきました。現地へ赴いたときは、震災から2週間ほど経過していましたが、活動の中心であった石巻、女川の方々は、震災の恐怖や悲しみを振り払い、前を向いて立ち上がる強さを感じました。



横内 義博 (42) 愛媛県 自動車整備業
「東北には違った形でなにか、お手伝いしたいです。」
今回、被災地などへの、ボランティア活動は初めて参加しました。日本で起こっていることであるが、同じ日本での出来事でないことのように感じていました。実際に現地に行って状況を前にして「ありえない」と思いながら、目の前の光景に現実味を感じないでいました。私は、地震発生

後1ヶ月位してから現地に行きましたが、1ヶ月たっても助けの手が届いていない人たちがいると聞いて、被害の広さ、酷さを感じました。色々な地方から来てるたくさんのボランティアの人達、いろんな分野、自分の両親よりも年齢が上のような人達もいて、被災者の人達の為に「なにかしたい!!」という思いが感じられて感動しました。短い期間しかお手伝いすることが出来ませんでしたので、今後に活かす ことのできる経験が出来たかはわかりませんが、この経験を生かすことがないことを祈りたいです。また、東北には違った形でなにか、お手伝いしたいですし、いちばんいけないと思ってることは無関心になることだと思うので、東北のことを忘れないでいきましょう。それと近隣の影響を受けている方たちのこと。石巻商業高校での炊き出しをされ方々お疲れさまでした。



嶋本 豊 (47) 山梨県 団体職員
「“ありがとう”と言ってくれていたのが忘れられない。」
石巻・女川に到着して思ったのは、内陸側被害に比較し海側の津波被害はまさに激甚。SSERの活動もやれることは限られている。その中でできることはきっちりやれたんではなかるうか。ケータリングで配膳をしていた時、はじめの頃は言葉少なな被災者の方が、最後のほうでは「ありがとう」と言ってくれていたのが忘れられない。「山崎春のパン祭り」も忘れられない……。



自律的で持続可能な緊急支援の出来る装備と人員が、NPOSSERの活動を支えた。女川原発へ地上から温かい食事と支援物資を搬入できたのも、その機動力だった。